



松山台



＝第10号＝

令和8年3月26日
練馬区立開進第二中学校
校長 平野 茂
3月の色(その2): 桜色

自立 よく考える人になろう・勤労 すすんで働く人になろう・協調 ともに助け合う人になろう

「人間万事塞翁が丙午」

本日、令和7年度の修了式を終えました。本校の今年度は、管理職をはじめ教職員の異動も多く、戸惑われたこともあったかと存じますが、皆様のご理解とご協力に支えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

3月19日の卒業式では、3年生127名が開二中を巣立っていきました。

校長としてありがたく感じるものの一つは、卒業証書を一人一人に手渡せることです。証書を渡す瞬間、私の手と卒業生の手が重なり、その後、証書が私の手から離れていくときに、卒業生が開二中を巣立っていくことを実感します。マイクを外しているため会場には聞こえませんが、一人一人に「おめでとう」と声を掛けています。涙を流しながら証書を受け取る姿に触れるたび、日々の中で薄れがち大切な感情を、改めて思い起こします。

式辞でも触れましたが、卒業生は平成22年度生まれであり、平成23年3月11日の東日本大震災の年に幼少期を過ごした世代です。絆や希望という言葉とともに歩んできた生徒たちです。これから、よりよい社会をつくる一員として成長していくことを願っています。卒業生の保護者の皆様におかれましても、義務教育を終えられ、感慨もひとしおのことと存じます。ご卒業、誠におめでとうございました。

さて、3月も終わりに近づき、少し時期は過ぎましたが、今年の干支は「丙午(ひのえうま)」です。丙は火、午は勢いよく駆ける馬を表すとされ、「前へ進む力」を象徴する年とも言われています。本校の生徒たちの姿には、それぞれが目標

に向かって歩む、まさにその力強さが感じられます。

午年にちなみ、「人間万事塞翁が馬」ということわざも思い起こされます。人生の出来事は、その時点で良いか悪いかを簡単に決められるものではない、という意味です。この言葉は、中国の古い書物『淮南子』に由来します。国境近くに住む老人の馬が逃げたとき、人々は不幸だと慰めました。しかし老人は「それが幸いになるかもしれない」と言います。やがて馬は立派な馬を連れて戻り、人々が喜ぶと、今度は「これが不幸になるかもしれない」と答えます。その後、息子はその馬から落ちてけがをしますが、そのために戦に行かずに済み、命を守ることができました。

今回のタイトル「人間万事塞翁が丙午」は、青島幸男の小説名から借りたものです。この一年を振り返ると、生徒たちは悩みや苦しさを感じる場面もあったことでしょう。しかし、それらにとらわれ続けるのではなく、成長の糧としてほしいと願っています。つらい出来事も、後になって振り返れば、大切な経験だったと思える日がきっと来ます。

とはいえ、願うだけでは何も変わりません。信頼できる大人や友だちに相談すること、勇気を出して一歩踏み出すこと、生活を整えること。そうした小さな行動の積み重ねが、前に進む力になります。学校として、そうした一歩を後押しするには何ができるのか。そのことを考えていた一年でもありました。

来年度も、どうぞよろしく願いいたします。

校長 平野 茂

第77回卒業式

3/19(木)に第77回卒業式を行いました。ラッキー7が幸いしたのか、朝のうちは雨の予報でしたが、雨に降られることもなく実施でき、とても穏やかな卒業式となりました。

校長式辞の中で、生徒一人一人が社会の希望そのものであると伝えました。きっと、その期待に応えられる社会人に育っていくと思っています。

午後にセミナーハウスで第二卒業式を行うことができ、全員に卒業証書を渡すことができました。



今年度最後の保護者会 3/23(月)

学校評価(特別号にて報告済み)の振り返り、不登校への取組、学校のDX化についてお話ししました。特に、本校の不登校の状況については、生徒一人一人に背景や理由があり、学校に来ることだけが一番の解答だとは考えていないこと、生徒一人一人にとって一番良い方向を一緒に考えていきたいことをお伝えしました。

また、sigfy とホームページの活用を進め、さらに学校生活の様子をお伝えできるようにしていきたいと考えていることもお伝えしました。(ホームページの学校日記の記事は、過去3年分のもので閲覧可能とします。ご了承ください。)

令和7年度 離任式 3/24(火)

今年度離任する4人の教員から感謝の気持ちと、生徒のこれからに期待を込めてメッセージを送りました。(以下概要)

自身の服装(黒い服)を例えに、黒子(裏方)として支える姿勢や、他者理解の重要性を伝えました。

異動となり生徒とお別れするにあたり、今の時間・仲間を大切にすることを伝えました。

これまでの生徒との関わり(授業・行事・委員会活動)を振り返り、成長を感じることができたこと、人は人によって支えられる存在であることを伝えました。

【副校長から(離任式での言葉・一部編集)】
大切にしてほしい三つの「め」の話。

一つ目は「芽」。皆さんには自分らしく生きていくための大切な「芽」があります。日々の言葉遣いや行動という小さな「芽」を、自分の中に大切に育ててください。それはやがて、周りの人を癒やす大きな樹になります。そして、その「芽」は一人一人違います。違うからといって、踏みつけるような行為は許されることではありません。

二つ目は、相手を真っ直ぐ見、困っている友達や、誰かの小さな頑張りに気付ける「優しい目」。三つ目は、物事を判断するための「目」。自分の物差しだけで判断せず、相手の立場に立ち、「もし自分だったらどう感じるだろう?」と想像する力が、誰かの「芽」を守り、差別のない優しい世界を作る第一歩になります。

「優しい目」と「物事をみる目」をもち、お互いの素晴らしい「芽」を守り育てていけることを、新しい場所からずっと祈っています。

開進第二中学校での日々は1年という短い期間でしたが、生徒の皆さん、そして、保護者、地域の方々と過ごした時間は、私にとってかけがえのないものです。たくさんのご支援ありがとうございました。1年間、本当にありがとうございました。

開進第二中学校 副校長 関根 奈美江
(人事異動については改めて新年度にお知らせいたします。)

始業式:令和8年4月7日(火)